

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 4 日作成)

小委員会名	集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会	主 査 名：濱田幸雄 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：秋元孝之 主 査 名：坂本慎一
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>新幹線，在来線から発生する音を統一的に測定する方法として，A 特性音圧レベルより騒音暴露レベルを算出，さらに等価騒音レベルを最終的評価量とする方法を提案する。集合住宅の床衝撃音レベル，室間音圧レベル差の評価尺度は，居住空間の騒音レベルに影響されることから，室内騒音レベルを加味した遮音性能評価手法を提案することを目的とする。</p> <p>初年度：新幹線，在来線，貨物列車の軌道近くでの録音から，単独走行，複合走行など各種パターンを想定した走行音を切り出し，窓の遮音性能，部屋の応答を畳み込んで試験を作成，アノイアンスを指標とする聴感実験を行う。</p> <p>2～4 年度：①鉄道騒音の測定及び評価法の提案，②居住者のパーソナリティーを考慮した室間音圧レベル差，床衝撃音レベルの要求性能の検討</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 主査：濱田幸雄 (日本大学) 委員：植村友昭 (鴻池組)，大内孝子 (建設環境研究所)，大脇雅直 (熊谷組)，古賀貴士 (鹿島建設)，須賀昌昭 (住宅リフォーム・紛争処理支援センター)，浜田由記子 (大成建設)，本田泰大 (大林組)，松田貫 (BL)，向井達郎 (OTO 技術研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>2022 年度は以下の様に活動し、当初の予定を達成した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>新幹線，在来線から発生する音を統一的に測定する方法として，A 特性音圧レベルより騒音暴露レベルを算出，さらに等価騒音レベルを最終的評価量とする方法の有効性を主観評価実験により確認した。</li> <li>個人の音環境に関する個人の属性を，集合住宅の遮音性能評価水準に反映させるための基礎的検討を行った。その結果，個人の性格を表すビッグファイブが有効な指標であることが確認できた。</li> </ol>
委員会活動の問題点・課題	1. コロナ禍における被験者実験の制約の影響が大きかった。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2022 年度 小委員会活動 自己評価 (最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
<b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b>	<p>2022 年度は新たな知見を得ることができた一方で、Web 会議主体の小委員会運営となり、活発な討論とはならなかったため総合評価を B とした。</p> <p>1. 新幹線、在来線から発生する音を統一的に測定する方法として、A 特性音圧レベルより騒音暴露レベルを算出、さらに等価騒音レベルを最終的評価量とする方法の有効性を主観評価実験により確認した。本年の主観評価実験においては鉄道騒音のみを評価したが、日常生活によって室内で発生する音の影響についても検討する必要性が指摘されたので、今後の実験計画に反映させることにした。</p> <p>2. 音環境に関する個人の属性を、集合住宅の遮音性能評価水準に反映させるための基礎的検討を行った。その結果、個人の性格を表す指標としてビッグファイブが有効であること可能性が示唆された。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。